

沖縄津堅島方言助詞の体系的記述

又吉里美
(2004年9月30日受理)

A Systematic Description of Dialect Particles used in the Tsukenzima Dialect, Okinawa, Japan

Satomi Matayoshi

The particles are classified by functions. The following four functions can be set in dialect particles in the Tsukenzima Dialect, a local language used in the Tsukenzima island which is located in 5 kilometers southeast of the Okinawa main island: A) Commanding Function (This function acts to generalize and justify the whole sentence by receiving the previous noun and leading to the predicate verb. It is considered to be a frame of the sentence and a center in the particle system.); B) Modifying Function (This function modifies functions under the rule of the commanding function.); C) Connecting Function (This function acts to connect sentence and sentence.); D) Affective Function (This function expresses speaker's feelings.)

Above four functions can be divided into two categories: "Commanding Function and Connecting Function" and "Modifying Function and Affective Function." The former plays a role in organizing a sentence logically and the latter takes charge in modifying a sentence. Moreover, it is considered that the "Modifying Function" is deeply related to the part of the "reason" like judgment, and the "Affective Function" is related to the expression of the feeling.

Key words : Tsukenzima Dialect, Dialect particle, Particle function, Commanding Function, Modifying Function, Connecting Function, Affective Function

キーワード : 津堅島方言, 方言助詞, 助詞機能, 統率機能, 接待機能, 連結機能, 情動機能

I. はじめに

1. 先行研究

国語における助詞, 特に「亄爾乎波」に関しては万葉の時代からその意識があり, 研究も古く, 中世の¹⁾『手爾葉大概抄』はその代表である。特に, 本居宣長らの近世の国学者たちの研究を経て, 近代に入り, 助詞の研究は西洋の文法研究に触れ, 大きく発展する。大槻文彦や山田孝雄, 橋本進吉ら文法学者たちによって文法の体系化の一項目として助詞の分類も盛んに試みられていく。そして, 現在, 助詞の研究は奥津敬一郎, 仁田義雄, 村木新次郎らにより統語論を取り入れた研究へと発展している。このように国語の助詞研究は古くからなされ, その体系化も一定の成果を得, 現在では国語の助詞研究は統語論の概念を取り入れた研究へと進んでいる。

さて, ここで, 琉球方言助詞の先行研究について見てみる。琉球方言助詞の研究における第一人者は野原三義であり, 著書『琉球方言助詞の研究』(1986)において那覇, 久米島, 国頭, 徳之島の広範囲に渡る地域において助詞の意味機能を記述し, 共時的体系を明らかにしている。野原氏によって琉球方言の助詞の意味機能が体系的に記述されたといっても過言ではない。その野原氏の研究を中心に主な琉球方言助詞の研究における助詞の分類方法を見てみる。まず, 野原氏は助詞を主に前後に承接する品詞や承接の程度による

形態論的基準に基づき, A助詞, B助詞, C助詞, D助詞の四つに分類している。それと同時に国語の助詞の分類基準である格助詞, 係助詞, 副助詞, 終助詞, 接続助詞などの概念も取り入れた分類である。次に内間直仁, 新垣公弥子『沖縄北部・南部方言の記述的研究』(2000)を見ると, 助詞を準体助詞, 並列助詞, 格助詞, 副助詞, 係助詞, 連体助詞, 接続助詞, 終助詞に分類し, 野原氏と同様に記述的, 形態論的な研究方法をとっている。また, 準体助詞や並列助詞を設けている点から橋本進吉の分類方法によっていると考えられる。次に, 生塩陸子の「沖縄伊江島方言の格助詞」(2001)では, 伊江島方言の格助詞の意味と用法の記述, 伊江島方言の格助詞と国語の格助詞との対応関係について言及されている。やはり形態論的な研究方法である。

このように, 琉球方言助詞の研究は形態論的な方法を用いて, 国語助詞の分類概念によった意味と用法を明らかにする研究が主流であったと言える。

2. 私の研究における立場

助詞の体系化において, 一般的な名称は野原氏や内間氏, 生塩氏なども用いているような, 格助詞, 副助詞, 係助詞, 接続助詞, 終助詞などのいわゆる学校文法用語がある。しかし, 助詞はあくまでも「辞」であり, 助詞自身は意味を持たず, 前後の語または句との

結びつきにおいて文に意味を与えるという特徴を持つ。助詞の研究においては、この「前後の語または句との結びつき」による、すなわち統語論的視点が必要である。したがって、助詞が持つ機能に着目し、その「機能」による分類もできると考えた。すると、四つの機能が考えられる。四つの機能とその内容は次の通りである。

A 統率機能

文全体を統括して筋を通す働きをする。主に直前の名詞を承けて、述部動詞へ導く。文の骨格をなすもので、助詞の体系の中でも中心にあるものといえる。

B 接待機能

修飾的機能を持つ。文の骨格として機能するのではない。あくまでも統率機能の支配下で機能する。

C 連結機能

上下の一まとまりの句的なものを連結させる。

D 情動機能

話し手の感情や、聞き手への文の投げかけを表す。

つまり、助詞を統語論的立場に立って捉え、機能から助詞を体系化しようとするのである。津堅島方言助詞について統語論的立場からそれらの体系的記述を試みた研究は筆者が先駆であると心得ている。

3. 資料の性質

津堅島方言助詞にどのような助詞があるのか、その主な機能は何かということ調べるために、現実に存在する沖縄津堅島方言の助詞の機能を客観的に分析記述する「記述文法」により津堅島方言助詞の体系化を試みる手法をとった。方言生活の記述の観点に立って、資料には自然談話を用いた。もちろん、助詞の出現に偏りが見られたが、基本的な助詞は採録することができた。それでも、採録ができなかったものに関しては、野原氏の『琉球方言助詞の研究』や内間直仁・新垣公弥子『沖縄北部・南部方言の記述的研究』などに見られる基本助詞を基に、話者に質問調査を行い助詞の使い方を確認した。

自然談話資料の詳細については以下の通りである。
談話資料①2002年9月22日 沖縄県勝連町津堅島
筆者の曾祖母（幸良カマ）宅
幸良カマ、恩納トヨ、他5名（中年女性1名、中年男性1人、老年女性3名）

談話資料②2004年3月11日 沖縄県勝連町津堅島
筆者の曾祖母（幸良カマ）宅
幸良カマ、恩納トヨ

II. 津堅島方言助詞の記述

A 統率機能

以下1～16までの助詞についてはそれぞれの機能に関する絶対的構造の機能は後の課題とし、専ら、それらの相対的機能についての記述を優先させている。

1. ガ [ga] 主格

ru:nu ifireNsa:jo noboru:ga mutfi:Nd3ijo paru:fi mid
zi kaki:Ngatfi igara umanui:fireNse:ga mufiburo:Nt3ijo
mufigaNte:sakutaN. /ルーヌ イシレンサーヨ、ノボル
ルーガ ムチーンジヨ、パルシ ミジカキーンガチ イ
ガラ、ウマヌ イシレンサーガ ムシブローンチヨ、ム
シガンテーサクタン。 /自分の一輪車はノボルが持って
行ってよ、畑に水かけにと言って、この一輪車が持ち
にくいといって持ちにくがっていた。

・ガ [ga] 連体修飾格

satfiko:ga kwa. tjo:d3o. /サチコーガ クア。チョー
ジョ。 /幸子の子。長女。

・ガ [ga] 動作作用の目的格

?aQke:na mike:juke:na umapakaiga sui:ja. /アツ
ケナー ミケーユケーナ ウマパカイガ スイヤ。 /
あら、三回四回もここ計りに来るよ。

2. ヌ [nu] 主格

wanuNjo uma fisanafe niNraNje kaninu iQtsu:
gutu. /ワヌンヨ ウマ シサナシェ ニンラン
イエ、カニヌ イツツウグトウ。 /私はね、ここ下に
しては眠らないよ、金（金属）が入っているから。

・ヌ [nu] 連体修飾格

hamasatojonaNnu ne:saNnija me:nafi nura:
rutaN. /ハマサトヨナンヌ ネーサンニヤ メーナシ ヌ
ラールタン。 /ハマサトの四男の奥さんには毎日怒られていた。

3. ニ [ni] 対象格

aripikidafiNka i:tukibe. asa katsumi:ni mutauwa:.
 /アリピキダシンカ イートウキベ。アサ カツミー
ニ ムタウワー。 /あの引き出しに入れておいて。明
日カツミに持たすから。

・ニ [ni] 時間格

so:so: nigatsuφutsukani jataNba:. /ソーソー ニ
ガツツツカニ ヤタンパー。 /そうそう、二月二日に
やったわけ。

4. ネ [ne] 時間格

wanu isugwafine ku:muN. /ワヌ イスグアシネ
クームン。 /私は盆には来なかったのに。

5. ニヤ [nija] 時間取り立て格

kadzipukinija iɸuna:sutaje. /カジブキニヤ イフ
ナスタエ。 /台風の時には変になっていたよ。

・ニヤ [nija] 対象取り立て格

hamasatojonaNnu ne:saNnija me:nafi nura:
rutaN. /ハマサトヨナンヌ ネーサンニヤ メーナ
シ ヌラールタン。 /ハマサトの四男の奥さんには毎日
怒られていた。

6. ンカ [Nka] 場所格

wanu namafikiti umaNka kani iQtifjo. /ワヌ ナ
マシキティ ウマンカ カニイッチョ。 /私は今だ
もってここに金(金属)が入っていてね。

・ンカ [Nka] 比較

uriru ?aQke: na:na sugoi deNwatfo:Ndzji ari
deNwatfo:Nka afikuna:Ngaraja deNwatfo:Nka. /
ウリル アッケー ナーナ スゴイ デンワチョーンジ
… アリ デンワチョーンカ アシクナーンガラヤ, デ
ンワチョーンカ。 /これぞ, ああ, もうもうすごい。電
話帳で…あの, 電話帳より厚くないかね, 電話帳より。

7. ウティ [uti] 場所格

jimauti umariti, jimaNkaru uNro:. /シマウティ
ウマリティ, シマンカル ウンロー。 /島で生まれ
て, 島に居るよ。

8. ンジ [Ndzi] 場所格

jimaNdziru umaritaru. /シマンジル ウマリタ
ル。 /島で生まれた。

9. シ [fi] 方向格

?aba umifi ikuNtifi i:tamunaga. /アバ ウミシ
イクンチ イータムナガ。 /あら, 海に行くって言っ
ていたじゃない。

10. シェ (一) [ʃe (:)] 方向格

imaraNba:hi:bajo amakara mata rihabiriseNse:ga niki
ʃe: agaQtekifi so:ibasuruba:te. /イマランバー ヒー
バヨー, アマカラ マタ リハビリセンセーガ ニキ
シェー アガッテキシ, ソーイバスルバーテ。 /いらっ
しゃらないようしたらよ, あそこからまた, リハビリの

先生が二階に上がってきて連れて行こうとするわけ。

11. (ッ) シ [(Q) fi] 手段

mata waija:fi pikatfumu. /マタ ワイヤーシ ピ
カチュム。 /また, ワイヤーで引いてある。

12. チ [tʃi] 自分の言葉・思考の引用

arigato:tʃi irijo:ja. /アリガトーチ イリヨーヤ。
 /ありがとうと言いなさいね。

・チ [tʃi] 他人の言葉の引用

ru:nu ifireNsa:jo noboru:ga mutʃi:Ndzijo parufi
midzi kaki:Ngatʃi igara umanuiʃireNse:ga muʃ
iburo:Ntʃijo muʃigante:sakutaN. /ルーヌ イシレ
ンサーヨ, ノボルーガ ムチーンジョ, パルシ ミジカ
キーンガチ イガラ, ウマヌ イシレンセーガ ムシブ
ローンチヨ, ムシガンテーサクタン。 /自分の一輪車は
ノボルが持って行ってよ, 畑に水かけにと行って, こ
この一輪車が持ちにくいといって持ちにくがっていた。

13. チュ [tʃu] 他人の言葉の引用

nu:kuN ko:tuNtʃu. /ヌークン コートウンチュ。
 /いろいろ買ったって。

14. ツ [tsu] 他人の言葉の引用

urega ikurunage: so:dʒi su:taNtsu. /ウレガ イ
クルナゲー, ソージ スータンツ。 /これが, 行く時
には掃除していたって。

15. カラ [kara] 基準

inamarukara ja:Nka isukine naraNgutujo uNro:
hi:gisana:. /イナマルカラ ヤーンカ イスキネ, ナラン
グトウヨ, ウンローヒーギサナー, /この若いうちから家に
いたら(在宅者になったら)だめだから, 運動しながら…,

・カラ [kara] 時間的起点

me:nafi a:taNro: me:nafi.gogokara saNdʒ
iatukara. /メーナシ アータンロー, メーナシ, ゴ
ゴカラ, サンジアトゥカラ。 /毎日(遊技の時間が)
あったよ, 毎日, 午後から, 三時後から。

・カラ [kara] 行動が行われる場所格

isugwafine: rihabiriseNta:kara uru. /イスグアシ
ネー, リハビリセンターカラ ウル。 /盆にはリハビ
リセンターにいた。

kazu:ga i:nu arifi…bjo:iNkara keNsaɸuNtʃi…bjo:
iNʃiga ho:ratitʃi kenNsaɸuNtʃi waQta:nu aNtʃiru

kuNnage: hoNto:kaja:suru. /カズーガ イーヌ ア
リシ…ビョーインカラ ケンサフンチ…ビョーインシガ
ホーラティチシ ケンサフンチ, ワッターヌ アンチ
ル クンナゲー ホントーカヤースル. /カズが胃のあ
れして…病院で検査するって…病院に連れて行って検査
するって, 私たちはだからこんなして本島通いしてる。

・カラ [kara] 手段

watana kurumaisukara hinejo heNnane:saNga
hejaNka u:taNjo. /ワタナ クルマイスカラ ヒネヨ,
ヘンナネーサンガ ヘヤンカ ウータンヨ. /私がね, 車
椅子で来たらね, 刃名のねえさんが部屋に居たんだよ。

16. トウ [tu] 一まとまりとしての並列

to:tʃi kusui numa:ti iQdʒu:kāNbuN asa hiru a:
asatu baN iQsju:kāNbuN uriga nikagetʃugo:tʃiru
keNsaʃuNtʃu:baNte:. /トーチ, クスイ ヌマー
ティ, イッジューカンブン アサ ヒル, アアー ア
サトウ バン, イッジューカンブン ウリガ ニカゲ
ツゴーチル ケンサフンチューバンター. /とーって
菓飲まされて, 一週間分, 朝昼, あ一朝と晩, 一週間
分, これが二ヶ月後に検査するっていうわけ。

B 接待機能

以下1～14までの助詞は表現上のレトリックに関
与する機能を持記される。

1. タイ [tai] 並列

ami agitai nu:ʃei. /アミ アギタイ ヌーシェイ
…。 /網をあげたり他のことをしたり…。

2. トウカ [tuka] 並列

isanaʃiti niNrariga tuNtaQtʃii:tuka hizamadʒ
ukitukaja naraN. /イサナシティ ニンラリーガ トウ
ンタッチイートウカ ヒザマジュキトウカヤ ナラン. /
下にして眠れるけど, お山座りとか正座とかができない。

・トウカ [tuka] 列挙

ari jibuituka. /アリ, シブイトウカ…, /あれは
冬瓜とか…,

3. シキティ [ʃikiti] 状態の継続

wanu namaʃikiti umaNka kani iQtʃijo. /ワヌ ナ
マシキティ ウマンカ カニ イッチヨ. /私は今だ
もってここに金(金属)が入っていてね。

4. マリ [mari] 作用の及ぶ時間的限界

atumari nukuiNro:. /アトウマリ ヌクインロー。
/後まで残るよ。

5. バカー [baka:] 程度

tabako tʃasaiʃiN kikaNramunu: pi:ni nikobaka:na
pukaNtagaraja ʔna. /タバコ, チャサイシン キカ
ンラムヌー, ピーニ ニコバカーナ プカントガラ
ヤ, ナ. /タバコ, どんなに言っても聞かんのに, 日
に二箱ばかりは吸っていなかったかね。

6. グライ [gurai] 程度

pukuratikara itʃo munu kamaNngutu iki suQte
gobjo:gurai iki suQtekara puku…pukurafinasaitʃi
iNba:jo. /プクラティカラ, イチョー ムヌ カマン
グトウ イキ スツテ, ゴビョーグライ イキスツテ
カラ プク…プクラシナサイチ インバーヨ. /膨ら
ませてから, 一応物は食べていないから, 息吸っ
て, 五秒ぐらい, 息吸ってからふく…膨らしなさいと
言うわけよ。

7. ヤ [ja] 取り立て

namakaru jeibiNre: jo:dʒiN haiNso:biraru
tusuija. /ナマカラル イエイビンレー, ヨージン
ハインソーピラル トウスイヤ. /今からですよ, 用
心なさって下さいよ, 年寄り。

8. ヨ [jo] 取り立て

ʔi korejo maNru:N me:nafi kirarumuN. /イ, コ
レヨ, マンルーン, メーナシ キラルムン. /うん,
これよ, たくさんある。毎日食べているのに。

9. エ [e] 取り立て

niNraruie niNraruiga ru:nuuke:tiru niNraNro. /
ニンラルイエ ニンラルイガ ルーヌウケーティル
ニンランロ. /眠ることは眠れるけど, 自分が用心し
て眠らないんだよ。

10. ヌ [nu] 取り立て

wanu namaʃikiti umaNka kani iQtʃijo. /ワヌ ナ
マシキティ ウマンカ カニ イッチヨ. /私は今だ
もってここに金(金属)が入っていてね。

11. ノー [no:] 取り立て

wano: aNtʃi ʔaQkiuNtʃi u:ma:NtamuN. /ワノ
アンチ アッキウンチ ウーマーントムン. /私は
こんなに歩けると思わなかったのに。 /

12. ル [ru] 強意

namakaru jeibiNre: jo:dziN haiNso:biraru tusuija. /ナマカラル イエイピンレー, ヨージン
ハインソーピラル トウスイヤ. /今からですよ, 用心なさって下さいよ, 年寄りほ。

13. ナ [na] 強意

?aQke:na mike:juke:na umapakaiga suiija. /アッ
ケナー ミケーユケーナ ウマパカイガスイヤ. /あ
ら, 三回四回もここ計りに来るよ。

14. ン [N] 並列取り立て

aNtji marururusake:ni ?aQke: wanuNna: paruN
hi:jaNja: netaQkiriru na:ruja:tfiru umutaru. /アン
チ マルルルサケーニ, アッケー ワヌンナー パルン
ヒーヤンヤー, ネタッキリル ナールヤーチル ウム
タル. /だから, 転んだ拍子に, あいや, 私もね, 畑も
できないなあ, 寝たつきりになるんだなあと思ったよ。

C 連結機能

以下1~10の助詞は論理の基幹を引導する機能が
特記される。

1. ティ [ti] 順接

kani iQtsu:gutu tuNtaQtjii:ja hi:janujo ta:tfipisa:
nubiti pisa:suNka:firu parusakuru. /カニ イッツウ
グトゥ トウンタッチーイーヤ ヒーヤヌヨ, ターチピ
サーヌビティ ピサースンカーシル パルサクル. /金
(金属)が入っているから, お山座りはできなくて
よ, 2つの足伸ばして, 足引きずって畑仕事してる。

2. シ [ʃi] 順接

imaraNba:hi:bajo amakara mata rihabiriseNse:ga
nikife: agaQtekifi so:ibasuruba:te. /イマランパー
ヒーバヨー, アマカラ マタ リハピリセンセーガ
ニキセー アガッテ キシ, ソーイバスルバーテ.
/いらっしやらないようしたらよ, あそこからまた,
リハピリの先生が二階に上がってきて連れて行こうと
するわけ。

3. カラ [kara] 順番・順序

pidzurugwa: nudikara imairu. /ピズルグァー ヌ
ディカラ イマイル. /冷たいの飲んでから行って下さいよ。

4. ギサナー [gisana:] 動作の並行

inamarukara ja:Nka isukine naraNgutujo uNro:
hi:gisana:. /イナマルカラ ヤーンカ イスキネ, ナ

ラングトゥヨ, ウンローヒーギサナー, /この若いうちから
家にいたら (在宅者になったら) だめだから, 運動しながら…;

5. ガ [ga] 逆説

isanafiti niNrari:ga tuNtaQtjii:tuka hizamad3
ukitukaja naraN. /イサナシティ ニンラリーガ トウ
ンタッチーイトウカ ヒザマズキトゥカヤ ナラン. /下
にして眠れるけど, お山座りとか正座とかができない。

6. スティ [suti] 逆説

sake numaNsuti i:nu nuNtura:nu ?ame. /サケ
ヌマンステイ イーヌ ヌングラーヌ アメ. /酒飲
まないのに, 胃がどうにかなることがあるね?

7. ネ [ne] 仮定条件

gurugurunuaiane jamaN. /グルグルヌアイネ ヤ
マン. /グルグル (しこりのこと) があったら, 痛い。

8. バ [ba] 仮定条件

kuruma ariba kuruma mafiro:. /クルマ, アリバ,
クルマ マシロー. /車? あったら車がいいよ。

jaNro: uNro: haNriba. /ヤンロー, ウンロー ハ
ンリバ. /そうだよ, 運動しないと。

9. グトゥ [gutu] 原因・理由

kani iQtsu:gutu tuNtaQtjii:ja hi:janujo ta:tfipisa:
nubiti pisa:suNka:firu parusakuru. /カニ イッツウ
グトゥ トウンタッチーイーヤ ヒーヤヌヨ, ターチピ
サーヌビティ ピサースンカーシル パルサクル. /金
(金属)が入っているから, お山座りはできなくて
よ, 二つの足伸ばして, 足引きずって畑仕事してる。

10. ナーンガ [na:Nga] 原因・理由

?aQke: take:e ʃi:NdzumuNnuna:Nga Nkafibanafe:.
/アッケー タケーエ シーンズムンヌナーンガ, シ
カシバナシェー. /あら, 二回は終わっていったから
(慣れているよ), 昔話は。

D 情動機能

以下1~37の助詞 (文末詞) は文末に位置して話し手
の情動を表現したり, 相手との心情を調整するのに機能す
る。意味は文脈で決まるので, 特定化しにくい特色がある。

1. ロ (-) [ro (:)] 疑問

ta:gara ima:tfuN ro:. /ターガラ イマチュン
ロー. /誰たちが来ているの?

2. ナ [na] 疑問
nu: na. /ヌー ナ。/何ね?
3. ネ (一) [ne (:)] 疑問
are mata tfu:bubjo:iNfiru ima:tsutsui ne. /アレ
マタ チューブビョーインシル イマーツツイ ネ。/
/あの方はまた中部病院にいらっしゃっているの?
4. メ [me] 疑問
sake numaNsuti i:nu nuNgura:nu ?a me. /サケ
ヌマンステイ イーヌ ヌングラーヌ アメ。/酒
飲まないのに、胃がどうにかなることがあるね?
5. ラー [ra:] 疑問
nama kisa ra:. /ナマ キサ ラー。/今、来たの?
6. ヤーン [ja:N] 自問自答
na: netaQkiriru ne:ru ja:N tfiru umuQtaru ?na. /
ナー ネットタキリル ネール ヤーン チル ウムツタル
ナ。/もう、寝たつきりになるんだろうかと思った、ほんと。
7. ガラヤ [garaja] 思い出し確認
tabako fjasaijiN kikaNramunu: pi:ni nikobaka:na
pukaNtagaraja ?na. /タバコ、チャサイシン キカ
ンラムヌー、ピーニ ニコバカーナ プカント ガラ
ヤ、ナ。/タバコ、どんなに言っても聞かんのに、日
に二箱ばかりは吸っていなかったかね。
8. ナガ [naga] 過去の確認
?aba umifi ikuNtji i:tamunaga. /アバ ウミシ
イクンチ イータム ナガ。/あら、海に行くって
言っていたじゃない。
9. ネ [ne] 自分の判断の確認
waQta:Nka utfuN itfijo uri te:sjutsusuNtji ne. /ワツ
ターンカ ウチュン イチヨ、ウリ、テーシュツスンチ、ネ /
私のとこに置いてある。一応、これ、提出するって、ね。/
10. ナー [na:] 反復確認
fitjaNka na: i:Nka na:. /シチャンカ ナー、イー
ンカ ナー。/下にね?、上にね?
11. ロ (一) [ro (:)] 自分の状況伝達の強調
a: wanuN kaniru iQtjuN ro. /アー、ワヌン カニル
イツウン ロ。/あー、私も金 (金属) が入っているよ。
niNraruie niNraruiga ru:nuuke:tiru niNraNro. /
ニンラルイエ ニンラルイガ ルーヌ ウケーティル
ニンラン ロ。/眠ることは眠れるけど、自分が用
心して眠らないんだよ。
12. ヨ [jo] 自分の状況伝達の強調
wanu namafikiti umaNka kani iQtfijo. /ワヌ ナ
マシキティ ウマンカ カニ イッチ ヨ。/私は今
だもってここに金 (金属) が入っているね。
13. ワ [wa] 自分の状況伝達の強調
ja:Nka utfiru umuwana. namaru aNtji kiku wa ?na.
/ヤーンカ ウーチル ウムワナ。ナマル アンチ
キク ワ ナ。/家にいると思っていたよ。今こんな
して聞かさ、ほんと。
14. イエ [je] 自分の状況伝達の強調
wanuNjo wuma fisanafe niNraN je kaninuiQtj
ugutu. /ワヌンヨ ウマ シサナシェ ニンラン
イエ、カニヌイツツウグトウ/私もよ、ここ下にして
は眠らないよ、金 (金属) が入っているから。
15. ワ [wa] 自分の状況伝達の強調
wanu mata kwatfiru umu wa. /ワヌ マタ クア
チル ウム ワ。/私はまた子かと思ったよ。
16. ナ [na] 自分の考えの強調
na: netaQkiriru ne:ruja:ntfiru umuQtaru ?na. /
ナー ネットタキリル ネールヤーンチル ウムツタル ナ。
/もう、寝たつきりになるんだろうかと思った、ほんと。
17. ワナ [wana] 自分の考えの強調
ja:Nka utfiru umu wana. namaru aNtji kikuwa ?
na. /ヤーンカ ウーチル ウム ワナ。ナマル ア
ンチ キクワ ナ。/家にいると思っていたよ。今こ
んなして聞かさ、ほんと。
18. バーヨ [ba:jo] 自分の考えの強調
urijataruhadzitji umuN ba:jo. /ウリヤタルハジチ
ウムン バーヨ。/これだったはずって思うわけよ。
19. ヨ [jo] 自分の考えの強調
ure tabakosuija: jo: Ntji i:taNjo. /ウレ タバコ
スイヤー ヨー ンチ イータンヨ。/彼はタバコ吸
い屋だよって言ったわけ。
20. ヤ [ja] 事実の伝達の強調
?aQke:na mike:juke:na umapakaigasui ja. /アツ
ケナー ミケーユケーナ ウマパカイガスイ ヤ。/

あら、三回四回もここ計りに来るよ。

21. バー [ba:] 事実伝達の強調

so:so: nigatsuφutsukani jataN ba:. /ソーソー ニガツ
フツカニ ヤタン バー。/そうそう、2月2日にやったわけ。

22. バーテ [ba:te] 事実伝達の強調

imaraNba:hi:bajo amakara mata rihabiriseNse:ga
nikife: agaQtekifi so:ibasuru ba:te. /イマランバー
ヒーバヨー、アマカラ マタ リハビリセンセーガ ニキ
セー アガッテ キシ、ソーイバスル バーテ。/いらっ
しゃらないようしたらよ、あそこからまた、リハビリの先
生が二階に上がってきて連れて行こうとするわけ。

23. イエ [je] 事実伝達の強調

kadzipukinija iφuna:suta je. /カジプキニヤ イフ
ナースタ イエ。/台風の時には変になっていたよ。/

24. レ [re] 事実伝達の強調

wata obasaNnu amaru re nama. /ワタ オバサン
ヌ アマル レ ナマ。/私のおばさんはあそこだよ、今。

25. イー [i:] 念押し

umafi utfuka i:. /ウマシ ウチュカ イー。/こ
こにおいておこよ。

26. ヨナ [jona] 強い念押し

Nda matfuki jona. /ンダ マチュキ ヨナ。/だ、
待っておきなさいよ。

27. レー [re:] 相手への言い聞かせ

namakaru jeibiN re: jo:dziN haiNso:biraru
tusuija. /ナマカラル イエイビン レー、ヨージン
ハインソービラル トウスイヤ。/今からですよ、
用心なさって下さいよ、年寄り。

28. ヨ [jo] 依頼

je mutatfijarai jo ti:tje. /イエ ムタチヤライ
ヨ、ティーチェ。/え、持たせてあげなさいよ、1つ。

29. ヨーヤー [jo:ja:] 依頼

arigato:tji iri jo:ja:. /アリガトーチ イリ ヨー
ヤー。/ありがとうと言いなさいね。

30. ベーエナ [be:jena] 提案

dakara Nda ure umaNka utukugutu atukara
nuNgura: iNso:ri be:jena. /ダカラ ンダ ウレ ウ

マンカ ウトゥクグトゥ、アトゥカラ ヌングラー イ
ンソーリ ベーエナ。/だから、これ(サトミ)はこ
こにおいておくから、後から、いろいろやったらいいさ。

31. ヤ [ja] 同意を求める

ta:gaNtji wakai ja mata. /ターガンチ ワカイ
ヤ マタ。/誰がって、分かるよね、また。

32. ネ (-) [ne (:)] 誘い促し

a:me ko:hi: numa ne. /アーム コーヒー ヌマ
ネ。/ほら、コーヒー飲まないね?

33. ベ [be] 誘い促し

sa: numibe je:. /サー ヌミ ベ、エー。/お茶飲んで、えー。

34. ハ [ha] 状況・状態の強調

amaNka a: ?ha. /アマンカ アー ハ。/あそこにあるよ。

35. ムン [muN] 状況・状態の逆説強調

i:N wano: aNtje ama:muno ka: muN. /イーン
ワノー アンチェ アマームノ カー ムン。/いい
や、私はあんな甘い物は食べないのに。/

36. ムヌー [munu:] 呆れていることの表現

tabako tfasaijiN kikaNra munu: pi:ni nikobaka:
na pukaNta garaja ?na. /タバコ、チャサイシン
キカンラ ムヌー。ピーニ ニコバカーナ プカント
ガラヤ、ナ。/タバコ、どんなに言っても聞かんのに。
日に二箱ばかり吸っていなかったかね。

37. ムー [mu:] 現状に対する反対の考えの強調

obasaN umafi irima:riba fimuN mu:. /オバサン、
ウマシ イリマーリバ シムン ムー。/おばさん、
こちらにお入りになったらいいのに。

III. 津堅島方言助詞の体系化

A 統率機能

ガ	[ga]	主格、連体修飾格、動作作用の目的格
ヌ	[nu]	主格、連体修飾格
ニ	[ni]	対象格、時間格
ネ	[ne]	時間格
ニヤ	[niya]	時間取り立て格、対象取り立て格
ンカ	[nka]	場所格、比較
ウチ	[uwi]	場所格
ンジ	[nzi]	場所格
シ	[si]	方向格
シュ(-)	[ʃe (-)]	方向格
(ン)シ	[(Q)si]	手段
チ	[ci]	自分の言葉・思考の引用、他人の言葉の引用
チュ	[ci]	他人の言葉の引用
ツ	[tu]	他人の言葉の引用
カラ	[kara]	基準、時間的起点、行動が行われる場所格、手段
トゥ	[tu]	一まとまりとしての並列

名詞と動詞, または, 名詞と名詞をつなげる働きを有する。つまり, 詞と詞を結ぶ働きである。

noboru:ga mutfi:Ndzijo (ノボル^ガ ムチーンジヨ/ノボルが持って行ってよ)

において「持って行く」という動作をするのは「ノボル」である。すなわち, 「持って行く」という動作をするのを「ノボル」と確定するのである。

katsumi:ni mutauwa: (カツミーニ ムタウワー/カツミに持たすから)

「持た」せる相手を「カツミ」と確定する。

nigatsuφutsukani jataNba: (ニガツフツカニ ヤタンバー/2月2日に(検査)やったわけ。)

検査した日を「2月2日」と確定させる。

umaNka kani iQtfijo. (ウマンカ カニ イッチヨ。/ここに金(金属)が入っていてね。)

金属が「入っている」位置を確定する。

umifi ikuNtji (ウミシ イクンチ/海に行くって)

「行く」方向(場所)を確定する。

waija:fi pikatfumu (ワイヤーシ ピカチュム。/ワイヤーで引いてある。)

「引いてある」資材を確定する。

midzi kaki:Ngatfi igara (ミジ カキーンガチ イガラ/水かけにと言って、)

「言っ」た内容を「水かけに」という具体的発話と確定する。

また, 名詞と名詞を結ぶ機能である連体修飾格も上と同様のことが言える。

hamasatojonaNnu ne:saNnija

(ハマサトヨナンヌ ネーサンニヤ/ハマサトの四男の奥さんには)

「奥さん」が「ハマサトの四男」の奥さんであることを確定する。また, 「tu」も次のように考察できる。

asatu baN (アサトウ バン, /朝と晩、)

「朝」と一まとまりになるものを「晩」と確定する。

つまり, 「統率機能」とは動作の為手, 行われる時間, 場所などの確定, あるいは名詞をより具体的に確定する働きを持つものである。また, それは文の中心として, 文意の骨格として文全体を統率するので, 以上のような機能を持つ助詞を「統率機能」とする。

文の骨格とは成り得ないが, 文の意味の広がりを持たせるものである。「タイ [tai]」から「グライ [gurai]」は国語の副助詞にあたる。「ヤ [ja]」から「ヌ [nu]」は国語の古典文法でいうところの「係助詞」にあたる。

「接待助詞」とは何かというと先にも挙げたように主な機能は「文意に広がりを持たせる」ということである。

pi:ni nikobaka:na pukaNtagaraja ?na

(ピーニニコバカーナ プカントガラヤ, ナ/一日に二箱くらは吸っていなかったかね。)

という例文を変形して次のように考えてみる。

pi:ni nikobaka:na pukataN

(ピーニニコバカーナ プカタン/一日に二箱くらは吸っていた。)

pi:ni niko pukataN

(ピーニニコ プカタン/一日に二箱吸っていた。)

下の表現は単純な事実を表示したにすぎない。それに対して「バカーナ」を承接させると, 話し手の主観, すなわち, 一日に吸う量としては「多い」という話し手の判断が加わるのである。

tuNtaQtjii:tuka hizamadzukitukaja naraN

(トウンタッチイートウカ ヒザマジユキトウカヤ ナラン。/お山座りとか正座とかができない。)

この例文においても

hizamadzukiga naraN (ヒザマジユキガ ナラン/正座ができない。)

とすると, 正座だけができないというように「ガ」によって「できない」動作が「正座」一つに確定されてしまう。しかし, 「トウンタッチイートウカ ヒザマジユキトウカヤ ナラン。」とすると, 「お山座り」「正座」などができない, つまり, 膝をまげるということができないという「できない」動作に広がりを持たせるのである。

「バカー」「トウカ」などの助詞によって文にいろいろな味付けをするのである。

つまり, 「接待助詞」とは文に味付けをほどこすようなものである。「確定」の働きをもつ「統率機能」とは逆に述語と関係を結ぶ詞や句に広がりを持たせたり, 直接表面上には表れない文意を醸し出させる機能を持つ。

B 接待機能

タイ	[tai]	並列
トゥカ	[tuka]	並列・列挙
シキタイ	[siki:tai]	状態の継続
マリ	[mari]	作用の及ぶ時間的限界
バカー	[baka:]	程度
グライ	[gurai]	程度
ヤ	[ja]	取り立て
ヨ	[jo]	取り立て
エ	[e]	取り立て
ヌ	[nu]	取り立て
ノー	[no:]	取り立て
ル	[ru]	強調
ナ	[na]	強調
ン	[n]	並列取り立て

C 連結機能

ティ	[ti]	順接
シ	[si]	順接
カラ	[kara]	順番・順序
ギサナー	[gisana:]	動作の並行
ガ	[ga]	逆接
ステイ	[stei]	逆接
ネ	[ne]	仮定条件
バ	[ba]	仮定条件
グトゥ	[gutuu]	原因・理由
ナーンガ	[na:nga]	原因・理由

順接、逆接は基本的な機能であり、その他、仮定条件、原因・理由などの機能もある。

格助詞とは違い、二つ以上の詞や辞によって構成された英文法で言うところの句にあたるものに承接し、句的なものをつなげる機能を有する。

さて、順接の特徴として基本的に時間の意識を持つことが挙げられる。

1 rihabiriseNse:ga nikife: agaQtekiji so: ibasuruba:te

ニキセー アガッテ キシ, ソーイバスルバーテ。

(リハビリの先生が2階に上がってきて、連れて行くようにするわけ。)

この例文において、「シ」が前部と後部とを連結させていることが分かる。そして、それが時間の流れと関係があることも問題はないであろう。まず、リハビリ担当の先生が二階に上がってくる。そして、(リハビリする部屋に)連れて行くようにする。という時間的な流れが認められる。

2 ta:tfipisa: nubiti pisa:suNka:firu parusakuru

ターチピサーヌビティ ピサースンカーシル パルサクル

(二つの足を伸ばして、足引きずって畑仕事してる)

この例文も「ティ」が前部と後部とを連結させていることは疑いない。この場合、上の例文のように時間の流れではないが、「足を伸ばす」ということと「足を引きずって畑仕事する」ということが同時進行していることを示し、やはり、時間の意識があると思われる。

以上のことを念頭に置き、「カラ」を用いた下の例文を見ると、1の例文と同様の「時間の流れ」の意識があると考えられる。

pidzurugwa: nudikara imairu

ピズルグァー ヌダイカラ イマイル

(冷たいの飲んでから行って下さいよ。)

また、「動作の並行」を表示する「ギサナー」を用いた下の例文には2の例文と同様の「同時進行」の意識がある。

inamarukara ja:Nka isukine naraNgutujo uNro:hi:gisana:

イナマルカラ ヤーンカ イスキネ, ナラングトゥヨ, ウンローヒーギサナー

(この若いうちから家にいたら(在宅者になったら)だめだから、運動しながら。〔畑仕事をする〕《この場合畑仕事を運動がわりにというニュアンスである。すなわち、畑仕事をするのが同時に運動することになっているということである。》)

したがって、「カラ」「ギサナー」は順接に準ずる機能を有すると考えられる。

一方、逆説は時間の意識を必ずしも持たず、上の文と

下の文の間にある論理の矛盾や対立関係を表示する。

sake numaNsutu i:nu nuNgura:nu ?ame.

サケ ヌマンステイ イーヌ ヌングラーヌ アメ

(酒飲まないのに、胃がどうにかなることがあるね?)

疑問形だが、疑問の意味をはずした変形で考えてみると、
sake numaNsutu i:nu nuNgura:natuN

サケ ヌマンステイ イーヌ ヌングラーナトゥン

(酒飲まないのに、胃がどうにかなる。)

となり、ここには順接に見られたような時間の意識はなく、前部の事柄と後部の事柄との間の論理の矛盾が表示されているだけである。

ただ、順接にしても逆接にしても前部と後部の句的なものを連結させる働きがあることはいうまでもない。つまり、連結機能とは句と句をつなげる働きである。

D 情動機能

ロ (-)	[ro:]	疑問
ナ	[na]	疑問
ネ (-)	[ne:]	疑問
メ	[me]	疑問
ラー	[ra:]	疑問
ヤーン	[ja:n]	自問自答
ガラヤ	[garaja]	思いだし確認
ナガ	[naga]	過去の確認
ネ	[ne]	自分の判断の確認
ナー	[na:]	反復確認
ロ (-)	[ro:]	自分の状況伝達の強調
ヨ	[jo]	自分の状況伝達の強調
イエ	[je]	自分の状況伝達の強調
ワ	[wa]	自分の状況伝達の強調
ワ	[wa]	自分の考えの強調
ナ	[na]	自分の考えの強調
ワナ	[wana]	自分の考えの強調
バーヨ	[ba:jo]	自分の考えの強調
ヨ	[jo]	自分の考えの強調
ヤ	[ja]	事実の伝達の強調
バー	[ba:]	事実の伝達の強調
バーテ	[ba:te]	事実の伝達の強調
イエ	[je]	事実の伝達の強調
レ	[re]	事実の伝達の強調
イー	[i:]	念押し
ヨナ	[jana]	強い念押し
レー	[re:]	相手への言い聞かせ
ヨ	[jo]	依頼
ヨーヤー	[jo:ja]	依頼
ベエーナ	[be:ena]	提案
ヤ	[ja]	同意を求める
ネ (-)	[ne]	弱い促し
べ	[be]	弱い促し
ハ	[ha]	状態・状況の強調
ムン	[mun:]	状況・状態の逆説強調
ムヌー	[munu:]	果れていることの表現
ムー	[mu:]	現状に対する反対の考えの強調

情動機能は人間の感情を表すので種類が多い。それは表を見ると明らかで、4つの機能の中でも助詞の種類が一番多い。また、国語にも見られることだが、いわゆる終助詞を重ねて表現する用法も多く見られる。「接待機能」と同様に文に広がりを持たせるのであるが、大きな違いは人間の感情の表出に関わるということである。例えば、接待機能である「バカー」や「トゥカ」では人間の感情を表現することはない。基本は事柄の記述である。「pi:ni nikobaka:na pukaNtagaraja (一日に二箱ぐらいいは吸っていなかったかね)」にしても、二箱を「多い」とするか「少ない」とするか判断の表れであり、感情ではない。事柄の主観による判断である。それに対して、「情動機能」は人間の感

情に基づく。それが顕著に表れている文例を見ると次のようなものがある。

ムヌー [munu:]

呆れていることを表すの表現

tabako tʃasaiʃiN kikaNra munu: pi:ni nikobaka:
na pukaNta garaja ?na

(タバコ、チャサイシン キカンラ ムヌー。ピーニコバカーナ プカントガラヤ、ナ/タバコ、どんなに言っても聞かんのに。日に二箱ばかり吸っていなかったかね)

つまり、タバコが体に悪いからやめなさいと言って、タバコをやめない人に対して呆れ果ててしまっている心情が吐露されているのである。

バーヨ [ba:jo] 自分の考えの強調

urijataruhadzitʃi umuN ba:jo. (ウリヤタルハジチウムン バーヨ。/これだったはずって思うわけよ。)

自分の考えはこうだということを強調して相手に伝える働きをしている。

ロ (一) [ro (:)] 疑問

ta:gara ima:tʃuN ro:. (ターガラ イマチュン ロー。/誰たちが来ているの?)

「誰が来ているのか」と知りたいことを相手に問う。

レー [re:] 相手への言い聞かせ

namakaru jeibiN re: jo:dʒiN haiNso:biraru tusuija. (ナマカラル イエイピン レー、ヨージン ハイソープラル トウスイヤ。/今からですよ、用心なさって下さいよ、年寄りは。)

相手を気遣い、「用心なさって下さい」と相手に言い聞かせる。

「ムヌー」や「バーヨ」の例文に見られるように、話し手が自分の思いを文脈に含ませる働きがある。また、それだけではなく、「自分が知りたい」と思う欲求(「ロ (一)」)や「相手を気遣う」相手への思いやりの気持ち(「レー」)など自分の思いといった自分の感情を相手に伝えるなど、相手への投げかけや相手との掛け合いの時に用いられる。これも情動機能の大きな特徴の一つである。このように「情動機能」には人間の感情を表す機能がある。

IV. まとめ

以上のようにまとめてみると、4つの機能はさらに大きく二つに分類できるであろう。すなわち「統率機能と連結機能」と「接待機能と情動機能」である。前者は文を構成する際の論理的機能を担う。すなわち、文意の筋道をつけるものである。一方、後者は文に味付けをほどこすようなものである。もう一ついえば、情念の世界を表す機能を担う。ただし、「接待機能」と「情動機能」はともに文意に広がりを持たせる機能ではあるが、それぞれ「接待機能」は判断など「理」の部分、「情動機能」は感情などの「情」の部分の表示に深く関わるものと考えられる。

本稿は津堅島方言助詞総体を広く眺めて、その世界の見取り図を描いた壮大な研究の一つである。統語論的意味によって助詞を記述していく立場を鮮明にした点が特色である。

¹『手爾葉大概抄』は定家の作と伝えられているが、現在は定家の後人の手によるものというのが定説である。鎌倉末期か室町初期ごろ成立したと言われている。

V. 参考引用文献

- ・内間直仁, 新垣公弥子 (2000.3) 『沖縄北部・南部方言の記述的研究』(風間書房)
- ・江端義夫 (2003.3) 「渥美半島方言助詞の研究 前篇」『広島大学大学院教育学研究科紀要』
- ・生塩睦子 (2001) 「沖縄伊江島方言の格助詞」『日本語の消滅に瀕した方言に関する調査研究』(「環太平洋の言語」成果報告書A4-001) 平成13年3月30日
- ・野原三義 (1986.2) 『琉球方言助詞の研究』(武蔵野書院)
- ・仁田義雄 (1980.3) 『語彙論的統語論』(明治書院)
- ・宮良信詳 (1995.9) 『南琉球・八重山石垣方言の文法』(くろしお出版)

本稿は広島大学教育学研究科言語文化教育講座の江端義夫教授にご指導頂いて成ったものである。記して感謝申し上げる。

(主任指導教員 江端義夫)